

算数科校内研修会を行いました

令和8年6月8日（月）6年2組 指導者 情野 夏美
算数科「分数×整数、分数÷整数、分数×分数」

自評

本時の見方は、 $\frac{4}{5}$ を3つに分けたうちの2つ分と捉えること、かけ算の性質を使い、既習の計算（分数×整数、分数÷整数）にして考えること。考え方については、面積図で量の関係を説明すること、かけ算の性質を使って整数になおす方法を説明することであった。交流時の机間指導の際に、面積図で考えようとしているまたは考えた児童に対して、 $\frac{4}{5}$ を3つに分けたうちの2つ分と捉えるための声かけを行ったり、全体共有の際、既習の計算にして考えた方法を取り上げたりした。児童のふり返りを見ると、半分の児童は理解したようであるが、残りの半分の児童は、 $\frac{4}{5}$ を3つに分けたうちの2つ分と捉えられていないことが分かった。次時で、再度確認を行いたい。また、単元の導入時に、分数の根本的な意味を確認する必要があったと感じている。

○課題解決の際、誰とどこで学んでもよい時間をたっぷりと設けることができた。

○交流の際に、同じ考えの児童をつないだり、より詳しくわかりやすい考え方を持つことができるような声かけをしたりすることができた。

▲まとめまで焦ってしまって、全体共有が中途半端になり、無理やりまとめを行ったようになってしまった。児童からは、交流の時間をもっと取ってほしいという声も聞かれた。さらに交流の時間を確保してもよかった。違う考え方や答えも出ていたので、児童同士の対話の中で解決させていく方法もあったかもしれない。途中で答えだけを確認したり、違う答えに焦点を当てたりして、全体共有は、次時でもよかった。



指導助言

加固 希支男先生(教育課程調査官) より

【授業について】

- 今まで習ったことを応用して解かせることができていた。算数においては、新しいことを学ぶことは既習事項をもとに解くことである。
- 導入時、数字に着目させるのではなく、分数×分数という言葉を使っていてよい。数字に気を取られると、本時の問題しか解けなくなり、数字が変わると解けなくなってしまう子どもになる。
- 交流時、ファシリテーターとしての役割があった。 $\frac{4}{5}$ を基準に、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{4}{5}$ を3等分した2つ分という芯を問う考え方を問いかけていた。
- ▲導入時に、何を使って解けるかを確認していたが、考え方(視点)と方法が混ざっていた。考え方と方法は分けて、別のものとして考えられるとよかった。
- ▲常に単元末の姿を意識して、意図的に単元構想を組む必要がある。この単元でとじる(終わらせてしまう)のか、かけ算の学習といった広い範囲で学習させるのか、意図によって発問や指導形態が変わってくる。
- ▲全体共有の考え方について。単元の初めは、共有しないと進んでいかない。1～2時間目までは、視点を全員で共有する時間を確保する。3時間目以降からは、減らしていく。1時間の中というよりは、単元全体でみていく。

【算数の授業とは】

- ・毎時間子どもをたのしませる授業をしたい。
- ・算数は1時間を積み上げていくとぶつ切りになる。単元のゴールを見据えて、どう次につなげていくかを考えていく。単元のすべて平らではいけない。傾斜をつける。
- ・常に単元目標に立ち返る。そのためには、教材研究が必須。最低単元で。できれば縦(系統性)の教材研究。全教科は無理。一つの教科でいい。
- ・個別学習が終わった子の姿・・・①与えられた課題を解く。②「これだったらどうかな」と考える子。→目的によって、教師の準備が違ってくる。
②の子を育てたい→1問目は全員で解き、2問目以降の問題を作らせる。(これでも定着は見れる。)問題を作りなさいとは言わないが、問題の作り方の指導も必要。
例：数字を変える、桁を増やす など
視点や見方・考え方を使って作っているかが重要。
- ・どんな子を育てたいのかとの整合性を図る。
- ・常に一般化を図る。
- ・一斉学習はいけないという風潮があるが、教えなくてはいけないことは一斉で教える。一斉学習(共有)と個別学習(一人ひとりの学び)は長所が違う。目的によって使い分ける。
- ・問題を提示した際、「今日は前に習ったこれが使える。」と児童が言えるとよい。1時間の最後のまとめでは、必ず、次はどんなことが使えるかを問う。
- ・学校教育目標とのつながりが大事。校内研究もそこから引っ張ってくる。